



# 学園だより

This Student Information Booklet contains a variety of useful information for Nagoya University students, including on-campus news as well as extracurricular activities.

vol.161

2014.3

## CONTENTS

コラム / 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集 / 特集① 平成25年度名古屋大学体育会会長表彰式  
 特集② 第54回体育会リーダーズ・アセンブリー / クラブ活動 / トピックス / 学務部の窓 / 災害対策 / 伝言板

## COLUMN

### 勇気について、そして自由について

名古屋大学総長 濱口道成

卒業おめでとうございます。これから社会に飛び立つ皆さん、更に研鑽を求めて進学される皆さん。卒業を迎え、様々な思いに包まれていることでしょう。この時期を迎えると、私も昔の自分を思い出します。自分という存在の脆さ、漠とした未来への不安に苛まれつつ、充実感を求めて、私は彷徨っていました。そして、様々な失敗を体験しながら、ニューヨークへ渡ったのは1985年、30代半ばの事でした。当時のニューヨークは、危険な、しかし魔的な魅力を持つ人種のるつぼでした。そしてそこで、恩師・花房秀三郎先生に指導を受け、多くの得難い友人たちと出会い、私の人生は大きく変わりました。先生は、独特の殺気に満ちた風格を持った方でした。常に真剣勝負の議論の中で、私は鍛えられました。

さて、名古屋大学憲章の「勇気ある知識人」という言葉を耳にする度、私は花房先生の事を、そして友人の一人アラン・アデレムの事を思います。アランは、南アフリカの生まれで、「アパルトヘイト（人種隔離政策）」に反対し投獄された末、米国に渡りました。今では免疫学の大家として活躍していますが、彼の心には常にネルソン・マンデラが在ります。

卒業を迎えるにあたり、皆さんにマンデラの残した言葉を贈ります。

I learned that courage was not the absence of fear, but the triumph over it. The brave man is not he who does not feel afraid, but he who conquers that fear. (私は学んだ。勇気とは恐怖を知らない事ではなく、それに打ち勝つところにあるのだと。勇者とは怖れを知らない人間ではなく、怖れを克服する人間の事なのだ。)

For to be free is not merely to cast off one's chains, but to live in a way that respects and enhances the freedom of others. (自由であるというのは、単に己の鎖を脱ぎ捨てるだけではなく、他人の自由を尊重し、向上させるような生き方をする事である。)

皆さんの未来が、豊かな出会いに満ちたものである事を、心より願っています。

# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『名古屋大学で過ごした四年間』

医学部 4年 伊藤 果穂

高校生の時にはまさか自分が名古屋大学で学ぶことが出来るとは思っていませんでした。しかし今、私は大学の卒業を迎えようとしていることを思うと、大変感慨深い思いがあります。

私が保健学科の検査技術学専攻に進もうと思ったきっかけは、人間の身体について、特に「病氣」というものに漠然と興味を持っていたからでした。私は大学生になるまで、医学部保健学科というところは専門学校とあまり変わらないのではないかと考えていました。しかしその意識は一年生にして覆されました。今までとは違い、大学は授業への出席すらもすべて本人の姿勢に委ねられ、自分から勉強する姿勢がなければ置いていかれる。逆に追求すればするほど自分に返ってくることを実感しました。

そして三年生後半で卒業研究をするにあたり、決定的な違いを感じたように思います。私の卒業研究では、一般には体に悪影響を与えるとされている不飽和脂肪酸が、酸化ストレスとその代償機構にどのような影響を及ぼすかについて調査しました。詳しく調べれば調べるほど、日に日に内容が自分の中で昇華されてゆくとともに、まだ人間の体の仕組み一つをとっても、解明されていないシステムは数多くあることを実感しました。医療の現場にも技術の発達や新知見は必要であり、既存のものをただ機械的に利用するだけではいけないのだと思うようになりました。

また、実際に臨床の現場を体験する機会として大学病院で臨地実習を行いました。ここでは座学では知り得ない多くのことを学ばせていただきました。自分の知識の不足を痛感するとともに、知識だけではなく、医療者として「検査」に携わるためにどのような姿勢で臨めばよいのか、何が必要かを考えさせられました。

勉強だけでなく、アルバイトやサークルでは様々な人との出会いがありました。出身や大学、はたまたま従事する職業も違う人たちと交流する機会を持てたのも大学生活ならではのかもしれない。同じ目的のために、熱意を持って取り組む仲間達には大きな刺激を受けるとともに、自分の世界を大きく広げてもらったように思います。

卒業後は進学せず、社会人として病院で働くこととなります。現在は臨床検査技師資格取得のための国家試験に向けて勉強の日々です。卒業後も大学生活で得たものを活かし、日々勉強の姿勢を忘れることなく邁進していきたいと思っています。



## 『大学生生活を振り返って』

工学部 4年 杉浦 さや

この春、私は学部生活を終え、大学院へと進学します。4年間を振り返ってみると、高校までには経験できなかったことを多く経験でき、あっという間に過ぎてしまったように思います。

大学生活の中で一番の思い出は、アメリカンフットボール部での活動です。大学に入るまでアメリカンフットボールというスポーツのことはまったくと言っていいほど知らなかったのですが、1年生の春の新歓で先輩方に出会い、その人柄の良さ、そしてアメリカンフットボールの魅力に惹かれて入部を決めました。

入部後は非常に忙しい日々が待っていました。練習が週に5日間あったため、勉強に割ける時間が他の人より圧倒的に少なくなりました。また、土日や長期休みにも練習があったため、高校生の時に思い描いていたようなアルバイトに励んだり旅行に行ったりするようなことはできないに等しい状態でした。

そんな中、私が4年生で引退するまでやって来られたのは、1年生のときに悔しい経験をしたからだだと思います。私が入部する前年、チームは東海1部リーグで最下位を取り、2部リーグとの入れ替え戦にも挑み、なんとか1部に残留しているという状態でした。しかし、私が1年生の時、1部リーグ優勝を狙えるところまで行ったのです。最終戦の南山大学との対決で勝てば優勝という場面で、惜しくも引き分けとなり、優勝の座を譲ってしまいました。その悔しい経験から、自分が4年生になった時は必ず優勝しようという思いが強くなりました。

4年生の引退までには多くの壁がありました。時には人間関係のことで悩みました。また、学生主体のチームであったため、組織の在り方について何度も何度も議論を重ねたこともありました。他の部活動やサークル活動が3年生で引退する中、アメリカンフットボール部は4年生の秋まで活動が続くため、勉強面において他の人よりも遅れをとったこともありました。しかし、そのような生活の中で、人との接し方や時間の使い方など、社会に出て役立つようなことを多く得られました。

惜しくも最後の年は同率優勝でしたが、1年生の時に立てた「優勝する」という目標を達成することができました。

アメリカンフットボール部があったからこそ、私の大学生活は充実したものになりました。そして、部で得られたものを進学してから、そして社会に出てから活かそうと思います。



(筆者・最前列左から3番目)



# 卒業生・修了生の学生生活の思い出文集



## 『人との出会い』

国際言語文化研究科 M2 川口 勇作

私が名古屋大学に進学してから早くも2年が経とうとしています。この2年という期間は、言葉にすれば短かったですが、過ごしてみると長く、そしてつらいことや悲しいことなど、いろいろなことがありました。自信をなくしたことや、孤独を感じたこともあります。そんなとき、いつでも周りの人の支えがありました。名大に進学して心からよかったと思ったのは、ありきたりかもしれませんが、多くの人との出会いに恵まれたことだと切に思っています。

国言の先生方や先輩・同期・後輩には研究はもちろん普通の生活に至るまで本当にお世話になりました。特に同じ講座のメンバーとは、夜遅くまで研究室に残って研究や自分たちの将来について語り合ったり、一緒に修士論文を執筆したりしたのは本当にいい思い出です。また、国言には様々な専門の学生が集まっていたので、話をする中で視野が広がり、そこから新たな研究のヒントが得られたことも少なくありません。ともに研究を志す者として、同期の存在はいつも私にとってのいい刺激になっていました。

学内の他研究科の方や、学会・研究会などを通して知り合った他大学の先生方、学生の方との交流の中で得られたものも数えればきりがありません。他大学の院生さんと一緒に研究の話をしたり、学会発表をさせていただいた際に他大学の先生方からも建設的なコメントをいただいたりといった経験ができました。またM2になってからも、論文投稿、共同研究、研究会の立ち上げ・運営といった貴重な体験ができました。これらは学会や研究会に参加する機会に恵まれた名大ならではのメリットではないかと思います。

入学時には学校教員志望であった私ですが、こういった経験を経て、来年度からは博士後期課程に進学して研究を続けることになりました。これも入学してからのいろんな人との出会いがあつてのことです。多くの人との出会いが私を変えました。名大は「人生を変えた場」と言っても過言ではないかと思います。先の道程は厳しいと思いますが、これからも「人との出会い」を大事にしながら、研究に邁進したいと思います。



## 『2年間を振り返って』

環境学研究科M2 野木村 龍

私が名古屋大学の大学院に入学したきっかけは学部4年の春でした。なんとなくおもしろそうだ、と軽い気持ちで卒業研究に選択したテーマが想像以上に奥が深く、もっとこれについて知りたいと考え、大学院は外部の研究室、それもせっかくだからこの分野でもっと有名な先生のもとで学びたいと考えました。そして方々探して辿り着いたのがここ、名古屋大学の環境学研究科でした。

入学した当時の私は非常にやる気に満ち溢れ、とても志が高い学生であったと思います。学部時代とは環境が変化し、新しい研究テーマや幅広い内容の授業など私の興味を引くものが周囲にたくさん存在している状況に興奮していました。しかし、今になって振り返ればこのときの私は欲張り過ぎていたと感じます。あれもやろう、これもやりたいと自身の身の丈を考慮せず多くを望み、そしてそれが叶わないたびに「せっかくだここに来たのに何をやっているのだろう」と落胆しました。一つ一つの失敗はたいしたものではなかったと思いますが、失敗を重ねていくうちに、自身に対する不自信が大きくなり、最終的には私が最も望んだ研究すら人並みにこなせない程に私は自分に失望してしまいました。

そんな私が修了できるのも周囲の方の支えがあったからです。迷惑や心配をかけてばかりの私を最後まで指導して頂いた先生や共に学び支えてくれた同期、弱音を吐いたときに励まし支えてくれた友人たち、他にも多くの方に支えられてきました。

私はこの2年間で何かを達成して、これを残せたと胸を張って言えるものはありません。ただこの2年間一方的に迷惑をかけて支えてもらってばかりではありましたが、人と人のつながりを常に実感しながら過ごすことができました。そのことに気付けただけでも、この2年間はこれからの私にとって非常に貴重な時間であったと思います。結局在学中はこの支えに対して何かを返すことができませんでしたが、社会に出てしっかりと成長して改めて支えてくれた人たちにこの恩を返していきたいと思います。また今度は支えてもらうのではなく、私が誰かの支えになれるように努めていきたいです。



(筆者・右)



# 特集① 平成25年度名古屋大学体育会 会長表彰 表彰式

平成25年度名古屋大学体育会会長表彰表彰式が、12月25日（水）、豊田講堂第1会議室において、名古屋大学体育会により挙行されました。

この表彰は、本学体育会に加盟するクラブが各種競技大会で優秀な成績を取めた場合、個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で25回目となります。

今年度は、12月9日（月）の体育会会長表彰審査会の審査を経た「個人の部」11名、「団体の部」7団体が本学体育会会長である濱口総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。



## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 平成25年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

表彰対象期間：平成24年11月1日～平成25年10月31日

### ● 個人の部（11名）

運動部名	氏名（学部・学年）	該当賞	出場大会名及び成績
アーチェリー部	山本 真也 工学研究科・M1年	一般賞 一般賞	2013年度東海学生アーチェリーインドア選手権大会 男子個人 優勝 第68回国民体育大会アーチェリー競技会 成年男子個人及び団体に愛知県代表選手として出場
	寺嶋 南 法学部・4年	一般賞 一般賞 一般賞	2013年度東海学生アーチェリーインドア選手権大会 女子個人 優勝 2013年度東海学生アーチェリー選抜選手権大会 女子個人 優勝 2013年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 女子個人 優勝
スキー部	朝日 一堯 工学部・4年	一般賞	第68回国民体育大会冬季大会スキー競技会 成年男子個人及び団体に愛知県代表選手として出場
トライアスロン部	池野 千紘 教育発達科学研究科・M1年	特別賞 一般賞	2013 J-TUエイジランキング 女子総合 第1位 第25回蒲郡オレシトリアスロンエイジ（スタンダードディスタンス）女子総合 第1位
	近藤 輝 工学研究科・M1年	一般賞	第25回蒲郡オレシトリアスロン学生選手権 東海・北陸男子 優勝
馬術部	中野 功太郎 工学部・3年	一般賞	第48回中部学生自馬競技大会 総合馬術競技の部個人 第1位
舞踏研究会	丸野 詩織 農学部・3年	一般賞	第49回中部日本学生競技ダンス選手権大会 八種目戦団体戦の部 第1位
ライフル射撃部	四ノ宮 悠司 工学部・4年	一般賞	第83回中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技個人 優勝
	稲垣 理美 情報文化学部・3年	一般賞	第26回中部女子学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射40発競技個人 優勝
	近藤 丈 教育学部・3年	一般賞	第84回中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技個人 優勝
陸上競技部	鈴木 亜由子 経済学部・4年	特別賞	第27回ユニバーシアード競技大会（2013/カザン） 女子10,000m 優勝、女子5,000m 第2位

### ● 団体の部（7団体）

運動部名	該当賞	出場大会名及び成績
アーチェリー部	一般賞	2013年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦 本戦女子団体 優勝
馬術部	一般賞	第48回中部学生自馬競技大会 総合馬術競技の部団体 第1位
舞踏研究会	一般賞	第49回中部日本学生競技ダンス選手権大会 種目別戦団体戦の部 優勝
ライフル射撃部	一般賞	第26回中部女子学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射40発競技団体 優勝
	一般賞	第83回中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技団体 優勝
男子ラクロス部	一般賞	第21回東海学生ラクロスリーグ1部 優勝
航空部	一般賞	第52回全国七大学総合体育大会 4連覇
陸上競技部	一般賞	第52回全国七大学総合体育大会 女子 3連覇

# 特集② 第54回リーダーズ・アSEMBリー

実行委員長 木村 誠吾（名古屋大学体育会）



平成25年12月7日・8日の2日間、東海地区国立大学共同中津川研修センターにおいて名古屋大学体育会の年中行事であるリーダーズ・アSEMBリー（以下L.A.）を開催しました。

L.A.は体育会に所属する団体の主将や幹部候補を対象として研修会を行うもので、今回で54回目を迎える伝統ある行事でもあります。L.A.は講演会やグループ討論を通してクラブ強化や幹部の在り方を考えること、また、学務部との意見交換や各団体間での交流を目的として行っています。

今回のL.A.では、「クラブ強化のために行うべきこと」について考えてもらいたいと思いました。1日目の始めは、副総長先生・学務部とのクラブ強

化に向けた話し合いを行いました。ウェイトトレーニングや柔軟、栄養管理についてクラブ横断的なトレーナーは必要かということや七大戦、名阪戦における名古屋大学の順位向上に向け、各クラブの意識改革を行うために必要なことなどについて各クラブ代表者から意見を発表してもらいました。その後、分科会としてグループに分かれてクラブ強化に関する様々なテーマについて討論をしてもらいました。「クラブ強化のために行うべきことは何か」「指導者の必要性」などのテーマに関してどのグループでも活発に議論が交わされました。

2日目の午前中は、1日目に引き続き分科会を行った後、各グループで討論したことの発表を行いました。各グループともそれぞれ個性的な発表を行ってくれました。例えば、モチベーションを上げるための方法についても各クラブで現在行っていることや、行っていきたいことなど様々な意見がありました。

2日目の最後には愛知学院大学ラグビー部コンディショニング・ディレクターなどを務める菅野昌明様より「怪我防止のためのトレーニング」についてご講演いただきました。トレーニングをする際、負荷の強度や休息の取り方を目的に応じてどのように変えればよいかということなど、大変参考になる講演でした。

今回のL.A.での分科会や講演会で学んだことを各団体に持ち帰り、各団体ひいては名古屋大学全体にとって有意義なものとなる事を祈っています。

最後になりましたが、今回のL.A.を開催するにあたりご尽力頂いた関係者の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。



## クラブ活動

### アメリカンフットボール部

私たちアメフト部は東海一部リーグに所属し、私立の強豪校を相手に毎年優勝を争っている。練習メニューの考案から、会計などの運営まで学生主体で行う形をとっており、部の運営を行う上で、学生同士の意見の衝突などもあるが、最上級生を中心に気のすむまで語り合い、あらゆる困難を全員で乗り越えている。

アメリカンフットボールは「地上スポーツの最終型」と言われ、力・技術・スピード、ありとあらゆる能力が必要とされる。つまり、必然的に様々な得意分野を持った選手が不可欠となる。また、約40名在籍するスタッフはただの「マネージャー」ではない。戦略部門、栄養管理部門、トレーナー部門、広報部門、という4つの部門に分かれ、選手と対等な立場で勝利に貢献している。



### ラガドーン・タバーン

ラガドーン・タバーンはテーブルトークRPG（TRPG）を主として活動するサークルです。TRPGではロールプレイといって、自分の作ったキャラクターになりきり、剣と魔法の世界や現代怪奇の世界などを冒険します。他にもボードゲーム、カードゲーム等をひとつの机を囲みながら楽しんでおります。

木曜日の授業の後、各々で集まり18時までボードゲーム等を楽しみ18時から「キャンペーン」毎に集まりTRPGで遊んでおります。「キャンペーン」は同じキャラクターで連続した冒険を楽しむ続き物で、執り行う機会を作る事が難しい事もあり該当ジャンルが好きな方には貴重な機会があふれているサークルであると思います。

私達は何時でもこの無限の世界への来訪者を歓迎しております！少しでも興味のある人は木曜日の放課後学生会館に遊びに来てください。きっと楽しい時間が貴方を待っているでしょう。



## トピックス

## 第50回須賀杯争奪駅伝競走大会

実行委員長 柳澤 颯太 (名古屋大学体育会)



平成25年11月23日(土)に、名古屋大学体育会と豊田工業高等専門学校学生会の共催で、第50回須賀杯争奪駅伝競走大会を開催しました。本大会は、今年で50回目を迎える伝統的な大会であり、体育会が行うイベントの中で最も規模が大きく、力を注いでいる大会の一つです。大会当日は晴天に恵まれ、暖かい日差しの中で開催することができました。

今回も第47回大会から開催されてきた庄内緑地公園での駅伝大会となりました。コースは公園内のサイクリングロードを回る周回コースで、起伏もなく、とても走りやすいコースとなっています。今大会では各校それぞれ16チームが集まり、その多くは体育会系クラブからのチームでした。そのため全体的にハイレベルな走りが多く見られました。チームによって走る格好も様々で、自分のクラブのユニフォームを着て走る選手もいれば、おもしろい仮装やパフォーマンスをして走る選手も見られました。このようなチームが現れるのも須賀杯駅伝の魅力の一つです。

準備が始まった8月から当日まで、様々なトラブルに見舞われ、思ったとおりにいかないことも多く、大変でした。しかし、大会を楽しんでくれている参加者や応援者の姿を見ると、須賀杯駅伝の企画・運営をして良かったと心から思いました。参加者もこの須賀杯駅伝を通じて何か得られたならば、大会実行委員長として嬉しい限りです。

最後に、今大会の開催にあたり、多くの方々に協力していただきました。企画・運営に携わった方々のみならず、素晴らしい走りをしてくれた参加者、またそれを見て応援する方達も大会を盛り上げてくれました。この須賀杯駅伝大会に関わったすべての方に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



総合成績 (上位6チーム)

順位	チーム名	団体名	所属	最終タイム
1	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	44分28秒
2	おがさわランジウォーク	陸上競技部	高専	48分14秒
3	豊田高専 硬式野球部 A	硬式野球部	高専	49分01秒
4	Super-Sub	駅伝サークル	名大	50分43秒
5	トライアスロン部	トライアスロン部	名大	50分43秒
6	バド部1年	バドミントン部	名大	50分44秒

区間賞

区間	名前	チーム名	団体名	所属	区間タイム
1区	小倉 高武	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	7分24秒
2区	山本 剛平	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	7分14秒
3区	楯元 樹	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	7分38秒
4区	横井天太郎	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	7分22秒
5区	我那覇雅也	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	7分36秒
6区	伊藤 兼梧	おぐらビッドフットショット	陸上競技部	高専	7分14秒

## 学務部の窓

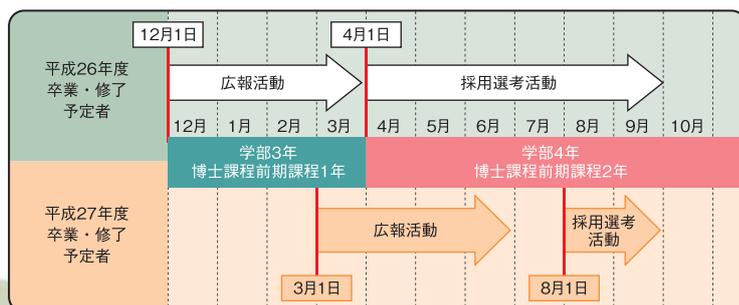
## 就職活動について

学務部学生支援課就職支援室

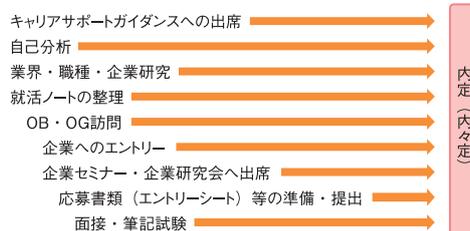
新学期の開始に向けて、就職活動を意識し始めた学生も多いでしょう。就職支援室では、就職活動の各段階に応じたガイダンス等を実施しています。ガイダンス等は、就職支援室ホームページ、就職支援メールマガジン、名古屋大学ポータル、及び各学部・研究科の掲示板で案内しますので、参加してみてください。また、専任相談員による就職相談も行っていますので、是非ご利用ください。

なお、平成27年度卒業・修了予定者からの就職・採用活動スケジュールが変更になりました。広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降に開始、その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の8月1日以降に開始となります。該当する学生は、注意してください。

就職・採用活動時期の変更について



## 就職活動の流れ (例)



名古屋大学ポータルサイト (スマートフォン・PC用)



メールマガジンの登録

## 就職支援室

場 所 工学部7号館B棟  
 T E L 052-789-2176  
 M A I L s-shien.evententry@adm.nagoya-u.ac.jp

# 学務部の窓

## 名古屋大学課外活動施設の利用案内

学務部学務企画課

本学には、一般学生及び教職員が利用できる施設として以下のような施設があります。施設の概要、利用方法詳細については、学生便覧に詳しく記載してありますが、不明な点があれば、学務企画課（内線2164・2165）まで問い合わせください。

### <運動施設>

運動施設には、総合運動場（陸上競技場、野球場、硬式テニスコート、フットサルコート等）、体育館、屋内プール等があり、総合保健体育科学センターの使用（授業、行事等）及び体育会所属運動部の使用時間を除いて利用できます。

利用希望者は下記により申し込んでください。

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 陸上競技場</li> <li>▶ 野球場</li> <li>▶ 硬式テニスコート</li> <li>▶ フットサルコート</li> <li>▶ 第1・第2・山の上体育館</li> </ul>
申し込み開始日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 使用月の前月 (第3月曜日17時以降)</li> </ul>
使用願用紙の交付・提出場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 運動施設予約システム (名大ポータル→キャンパス→キャンパスライフ)</li> </ul>

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 第3グリーンベルト</li> </ul>
申し込み開始日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 使用日の1か月前以降</li> </ul>
使用願用紙の交付・提出場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 体育会事務室（学生会館2階）</li> </ul>

運動施設の名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 屋内プール</li> </ul>
使用可能日	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 一般学生のためのプール開放は夏季休業中の午後（日曜を除く）と授業期間中の決められた曜日（週2日程度）の授業終了後に行われます。これ以外の時間帯での一般学生のプールの利用はできません。プール開放の詳細については、総合保健体育科学センターホームページ (<a href="http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/">http://www.htc.nagoya-u.ac.jp/</a>) をご覧ください。</li> </ul>
手続場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 屋内プール</li> </ul>



### <学生会館>

学生会館には、談話室、集会室（9室）、和室（2室）があります。集会室又は和室を利用する場合は、学生会館事務室で使用許可願の用紙を受け取り、必要事項を記入し、許可を受けてください。



### <中津川研修センター>

本センターは、自然豊かな岐阜県中津川市にあり、共同生活を通じて学生、教職員及び大学間の交流を図るとともに、課外教育等により大学教育の効果を高め、学生の人間形成に資することを目的に設置されています。

本センターには研修室や体育館が設置されており、また、センター周辺には中津川市等が管理するスポーツ施設や、妻籠宿、馬籠宿等の観光地が多数あります。

学生あるいは教職員の5名以上の団体で、4泊5日以内であれば本センターを利用できますので、研究室でのゼミ合宿、クラブサークルの合宿はもちろんのこと、リフレッシュや親睦を目的とした活動など、幅広い用途に積極的に活用してください。

なお、申請方法や利用料金等については、本センターのホームページを参照いただくとともに、不明な点は学務企画課課外活動掛まで気軽にご相談ください。

ホームページURL  
<http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/nakatsugawa/>

# 学務部の窓

## 平成26年度学年暦について

学務部学務企画課

平成26年度の名古屋大学の学年暦は以下のとおりです。  
時間割表の変更、休講、定期試験の実施方法、学生への連絡事項等の案内、連絡は掲示板により必要の都度行われますので、十分注意してください。

### ■第1学期（前期）

4	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27

4/1~10 新入生ガイダンス等  
4/5 入学式  
※4/11 第1学期授業開始日  
4/11~7/22 第1学期授業期間

5	月	火	水	木	金	土	日
	⑤	⑥	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

5/1 名古屋大学記念日

6	月	火	水	木	金	土	日
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

(6/5午後~6/8 名大祭)

7	月	火	水	木	金	土	日
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

6/28 火曜開講授業用の授業予備日  
7/5 木曜開講授業用の授業予備日  
7/19 授業予備日  
7/21 月曜開講授業用の授業予備日  
7/23~8/5 第1学期試験・授業期間

8	月	火	水	木	金	土	日
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

8/8~9/30 夏季休業

9	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

9/24~30 G30新入生ガイダンス等  
9/29 秋季修了式

授業実施可能回数	月	火	水	木	金
	14+1	14+1	15	14+1	15

+については講義予備日等の利用で15回実施可能となっている。

### ■第2学期（後期）

10	月	火	水	木	金	土	日
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

10/1 第2学期授業開始日  
10/1~1/26 第2学期授業期間  
10/3 秋季入学式  
10/13 月曜開講授業用の授業予備日

11	月	火	水	木	金	土	日
	③	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

12	月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28

12/23 火曜開講授業用の授業予備日  
12/24 月曜開講授業用の授業予備日  
12/25 金曜開講授業用の授業予備日  
12/26 授業予備日  
12/28~1/7 冬季休業

1	月	火	水	木	金	土	日
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

1/8 月曜開講授業用の授業予備日  
1/9 第2学期授業再開日  
1/16 休講予定(センター試験準備)  
1/17・18 入試センター試験  
1/27~2/9 第2学期試験・授業期間

2	月	火	水	木	金	土	日
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	

3	月	火	水	木	金	土	日
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29

3/25 卒業式

授業実施可能回数	月	火	水	木	金
	12+3	14+1	15	15	15

+については講義予備日等の利用で15回実施可能となっている。

## 学生教育研究災害傷害保険制度

学務部学生支援課

みなさんが、講義、実験、実習、演習または実技などの正課中、各種学校行事中、学校施設内にいる間、課外活動中及び通学中などに不慮の災害事故により身体に傷害を被ることは、万全の注意を払っていても発生することがあります。

このような不測の事態の被害の救済のため「学生教育研究災害傷害保険制度」があります。保険料は極めて低額になっておりますので、未加入者は必ず加入するようにしてください。

本学では、平成24年度に59件の事故に対して、約315万円の

保険金が支払われています。

新たにこの保険に加入しようとする学部生（留年・休学により保険の期限切れとなっている学生）、大学院生、研究生などは、原則として4月または9・10月の各募集期間中に所属学部等の教務学生担当掛で所定の手続きをしてください。

なお、すでに加入している学生で、この保険の対象となる事故が生じた場合、ただちに事故の日時、場所、状況、傷害の程度を上記の担当掛まで連絡してください。

＜医療保険金について＞ 医師の治療を受けたとき、治療日数により下記保険金が支払われます。

入院加算金については、1日から対象となります。	平常の生活ができるようになるまでの治療日数	支払保険金	入院加算金 (180日を限度)
<b>正課中・学校行事中</b> (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が1日から対象となります。)  <b>通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中</b> (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が4日以上の場合が対象となります。)  <b>上記以外の学校施設内にいる間・学校施設外での課外活動(クラブ活動)中</b> (平常の生活ができるようになるまでの治療日数が14日以上の場合が対象となります。)  (注)入院加算金は、医療保険金の支払の有無に関係なく入院1日目から支払われます。	治療日数 1日~ 3日	3,000円	<b>入院1日につき 4,000円</b>
	〃 4日~ 6日	6,000円	
	〃 7日~ 13日	15,000円	
	〃 14日~ 29日	30,000円	
	〃 30日~ 59日	50,000円	
	〃 60日~ 89日	80,000円	
	〃 90日~ 119日	110,000円	
	〃 120日~ 149日	140,000円	
	〃 150日~ 179日	170,000円	
	〃 180日~ 169日	200,000円	
〃 270日~	300,000円		

(注)上記の保険金は、生命保険、健康保険、他の傷害保険、加害者からの賠償金と関係なく支払われます。

## 学研災付帯賠償責任保険制度

### ① 保険の内容

日本国内外において、正課、学校行事等及びその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上支払わなければならない損害賠償を支払限度額の範囲内で補償します。

### ② 加入の対象者

学生教育研究災害傷害保険に加入している学生に限ります。

### ③ 対象となる活動範囲

#### Aコース 学生教育研究賠償責任保険（略「学研賠」）

正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Bコースの対象範囲を含む）

#### Bコース インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険（略称「インターン賠」）

インターンシップ、介護体験活動、教育実習、保育実習、ボランティア活動及びその往復。但し、学校が、正課、学校行事、課外活動として認めた場合に限る。

#### Cコース 医学生教育研究賠償責任保険（略称「医学賠」）

医療関連学部・学科の正課、学校行事、課外活動及びその往復。（Aコース、Bコースの対象範囲を含む）

#### Lコース 大学院生教育研究賠償責任保険（略称「法科賠」）

対人・対物賠償：法科大学院等の正課、学校行事、課外活動及びその往復。

人格権侵害補償：臨床法学実習による不当行為に起因する事故。

### ④ 補償金額（支払限度額）・保険料

活動内容	Aコース	Bコース	Cコース	Lコース
補償内容	学生教育研究賠償責任保険 （略称「学研賠」）	インターンシップ・ 教職資格活動等 賠償責任保険 （略称「インターン賠」）	医学生教育研究 賠償責任保障 （略称「医学賠」）	法科大学院生教育研究 賠償責任保険 （略称「法科賠」）
対人賠償 対物賠償	対人賠償と対物賠償合わせて1事故につき1億円程度（※免責金額0円）			
人格権侵害賠償				損害賠償請求者1名あたり 1,000万円限度 （※免責金額0円）
保険料分担金（1年間）	340円	210円	500円	2,300円

※免責金額とは、自己負担額をいいます。

### <対象となる事故例>



- ① 正課で化学の実験中、間違えて薬品を混ぜ、爆発事故を起こしてしまい、クラスメイトに火傷を負わせてしまった。（A・Cコース対象）



- ② 学園祭で、焼鳥屋の模擬店を出店したが食中毒事故を出してしまい、5人が入院してしまった。（A・Cコース対象）



- ③ 正課でのインターンシップ活動中、派遣先の機械を使用し、誤って壊してしまった。（A・B・Cコース対象）



- ④ 授業を受けるために自宅から大学へ行く途中、駅の階段駆け降りたとき、誤って前にいた老人にぶつかってしまい、大けがをさせてしまった。（A・Cコース対象）

## 学研災付帯学生生活総合保険

学研災付帯学生生活総合保険は、学生教育研究災害傷害保険加入者を対象に、病気・ケガの入院・通院が1日目から補償される等の特色のある学生生活全般に補償を広げた保険です。加入は任意加入となっています。

補償内容・加入方法については、「学研災付帯学生生活総合保険パンフレット」を参照してください。

# 災害対策

## 災害の経験を防災に活かす

入学・進学・就職などで新しい生活が始まる季節になります。この機会に身近な防災対策を見直し、災害時の対応も確認しておきましょう。そのためには、これまでに起こった災害の様子に学び、効果的な備えをすることが大切になります。

### ◆ 過去の大震災

日本は数多くの災害経験から貴重な教訓を得て、防災安全を向上させてきました。最近100年で3回の「大震災」があり、それぞれ異なる特徴的な被害がありました。1923年の関東大震災では東京周辺の大火により10万人近くが犠牲になりました。その後防火対策は進んだものの、大都市の火災は現在も重要な課題です。1995年の阪神・淡路大震災では、古い木造家屋を中心に10万棟以上の建物が倒壊し、6000人以上が亡くなりました。建物の耐震化は現在の最重要課題です。そして2011年の東日本大震災では、大津波により2万人近い死者・行方不明者となり、津波対策や避難体制整備が進められています。

### ◆ 将来の大震災

東海地域に大きな被害をもたらす将来の南海トラフ地震は、3回の大震災の特徴を合わせた巨大災害になる可能性があります。最悪条件を想定した被害予測（内閣府、2012年）によれば、マグニチュード9の地震が駿河湾から四国沖で発生した場合に、名古屋市南部など多くの地域で最大震度7の揺れ、太平洋沿岸で最大20mの津波になります。建物の被害は、揺れによる全壊が135万棟、津波による全壊が14.6万棟、火災で最大75万棟が焼失します。死者は、建物倒壊で8.2万人、津波で23万人、火災で2.2万人と予測されています。

愛知県内に限れば、想定される死者2.3万人のうち65%が建物倒壊によるものであり、耐震化により大幅に減らせます。また、建物が無事であれば避難所の混雑が減り、生活の復旧も早まります。津波が及ばない安全な地域で、耐震性の高い建物に住み、室内安全対策（家具の転倒防止など）を徹底できれば、大地震の危険は大幅に避けられることがわかります。新たな生活を始めるときこそ、安全を高めるチャンスです。

### ◆ あらたな被害のすた

東日本大震災では、交通、通信、電力の障害などによる大都市の混乱も深刻な問題となりました。「災害は進化する」といわれるように、自然現象の地震は同じでも、都市や社会や生活は大きく変わっていき、これまでの経験では予測できない新たな被害も起こりえます。将来は高齢化が進み、社会全体の防災力が低下することも予想されています。起こった被害を見て怖れるだけでなく、災害発生メカニズムと有効な事前対策を考えることが大切です。

### ◆ 災害の経験を防災に活かせるか？

「経験は最良の教師である（カーライル）」は有名な言葉ですが、このあとに「ただし授業料が高すぎる」と続きます。「愚者は自分の経験に学び、賢者は他人の経験に学ぶ（ビスマルク）」という言葉もあります。これまでの災害の経験を活かして、厳しい被害を受ける前に十分な対策をすることが最も重要です。しかし一方で、これらの言葉は、めったに起こらない大災害に対して、自分の身に起こることとして向き合う難しさも表しています。具体的な対策や注意点は、災害対策室の資料を参考にしてください。http://www.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/



## 伝言板

### 学生証は大切に

学務部学務企画課

最近学生証紛失による再交付の申請が増えています。学生証は本学の学生であることを証明するものだけでなく在学証明書等の発行や中央図書館入館等にも必要です。また、学生証に印字されている学生番号はwebによる学内向け情報へアクセスするのに必要となります。

万一紛失したり盗難にあった場合は、必ず警察へ届け出てから、所属学部教務学生掛等にて再交付の手続きを行ってください。紛失した学生証で、消費者金融無人契約機・レンタルビデオ店等で悪用され、思いがけない迷惑や被害を受けることもありますので、十分注意して下さい。

### 自転車の盗難防止・走行上の注意について

学務部学務企画課

学内において、自転車盗難の犯罪が増加しています。駐輪する際は短時間であっても必ず、施錠をし、鍵も二重ロック（ツーロック）にしてください。自転車窃盗犯の約70%がツーロックされている自転車は盗まないと述べています。

なお、当然のことですが、他人の自転車を無断で使用する行為は犯罪行為です。自転車の窃盗は、刑法第235条の「窃盗罪」であり、10年以下の懲役・50万円以下の罰金が科せられます。警察に検挙された場合、必ず書類送検され、さらに、本学からは学則に基づき懲戒処分が課せられることがあります。絶対に行わないでください。

また、自転車走行上の注意として、東山キャンパス周辺は、坂の多い地形ですので、特に下り坂でのスピードの出し過ぎや一時停止の無視等により、歩行者や他の車両との事故を起こさないよう、十分に注意してください。たとえ自転車でも、歩行者に接触すると命にも関わる大事故につながりかねません。周囲に配慮した、優しい走行を心がけてください。

### ゴミ出しマナーはルールを守って

学務部学務企画課

名古屋市では、各家庭から排出されるゴミは、種類毎に分別し、種類毎に指定された曜日・場所に出すことになっています。

名古屋市内で単身で下宿生活を送っている学生は、地域の一員としてこのゴミ出しルールに従い、ルールとマナーを守ってゴミを出すようにしてください。分別していないゴミは、処理できず放置される原因にもなります。

ゴミの出し方（種類の分け方）が判らないときは、各区の環境事業所、又は町内会の保健委員の方に尋ねるようにしてください。

なお、学内に家庭ごみや粗大ごみを持ち込んで投棄することは、不法投棄ですので絶対行わないようにしてください。本学では、不法投棄を発見した場合、警察への通報などの対応を取っています。